

# 骨密度測定装置（DXA 法）



10月に導入しました。



骨量が少ない方や減り方が激しい人は早く治療することで骨粗しょう症の進行を防ぐこともできます。近年では、骨粗しょう症を治療する薬もありますので早期発見、早期治療が大切です。

当院には超音波で骨密度を計測する装置もありますが、原発性骨粗鬆症の診断基準では、骨密度の測定部位は原則として、腰椎または、大腿骨近位部とするとあり、今回、新たに HITACHI 製 Dichroma Scan DCS-900FX 骨密度検査装置（DXA）を導入しました。

## ◇DXA（デキサ）法とは

Dual Energy X-Ray Absorptiometry の略で、2種類の異なる X 線を照射し、骨と軟部組織の吸収率の差で骨密度の計測をする方法です。被曝量は極めて少ないです。

## ◇測定部位

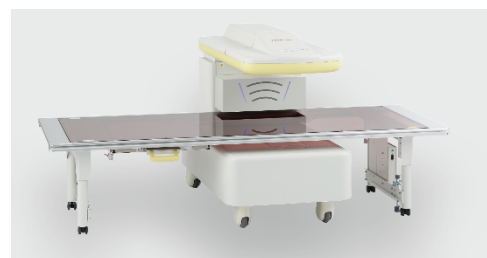
当院では腰椎と大腿骨を計測します。

検査時間は10分程で寝ているだけの検査です。痛みもありません。

## ◇検査結果を診察時にお渡しします。

結果を患者さんにグラフつきでお渡しします。

それらを元に今後の治療を考えます。



## ◇以下の方を特に対象とします。

- ・ これまでに転倒などの軽い衝撃により骨折を起こしたことがある方
- ・ 65歳以上の女性、65歳未満の閉経後から閉経周辺期の女性
- ・ 65歳以上の男性
- ・ 女性は男性と比較して骨量が少ない上に、閉経後のバランスが崩れ骨密度が低下するので、積極的に検査を受けることをおすすめします。

骨密度の値は年々変化していくものなので、経時的な変化をみるためにも同じ施設での検査をおすすめします。